

17

福生の大量埋蔵銭

■福生市の埋蔵銭

一九九五年（平成七）三月、市内熊川で造園作業中に、地下約一メートルのところから、中国の北宋時代の公鑄銭こうちゆうせんを中心に、五〇七五枚の埋蔵された銭貨が出土した。出土した銭貨は六二種類で、そのなかで最古のものは初鑄年が六二一年の開元通寶かいげんつうほう、最新のもののは初鑄年が一四六一年の琉球銭りゅうきゅうせんの世高通寶せこうつうほうである。埋蔵銭は、唐、宋、明の中国銭を主体にしており、なかでも北宋の時代に鑄造されたものが七〇・二パーセントを占めている。

■中世の銭貨流通

一六世紀末期までの日本の銭貨の主流を占めていた銅銭は、一二世紀の半ば以降中国から大量に入ってきたが、中国の通貨が利用されていたのはわが国に限ったことではなく、東は朝鮮半島、日本、琉球、南はジャワ、ベトナム、西はイラム世界に至るまでの広大な範囲に及んでいた。

中国を中心とする世界秩序は「華夷秩序かいちつじょ」とよばれ、そこ

銭貨名		国名	発鑄年	枚数
開元通寶	唐	唐	621	381
乾元重寶	唐	唐	758	17
前蜀	蜀	蜀	919	1
後周	周	周	955	2
唐通寶	唐	唐	959	4
開元通寶	南唐	南唐	960	4
宋通寶	北宋	北宋	960	13
太平通寶	北宋	北宋	976	36
淳化通寶	北宋	北宋	990	32
至道通寶	北宋	北宋	995	57
咸平通寶	北宋	北宋	998	70
景德通寶	北宋	北宋	1004	87
祥符通寶	北宋	北宋	1009	58
天禧通寶	北宋	北宋	1017	84
明道通寶	北宋	北宋	1023	191
景祐通寶	北宋	北宋	1032	21
皇祐通寶	北宋	北宋	1038	50
慶曆重寶	北宋	北宋	1045	19
至和通寶	北宋	北宋	1054	1
嘉祐通寶	北宋	北宋	1056	62
嘉祐通寶	北宋	北宋	1056	8
治平通寶	北宋	北宋	1064	63
熙寧通寶	北宋	北宋	1068	103
元祐通寶	北宋	北宋	1086	63
元祐通寶	北宋	北宋	1086	8
元祐通寶	北宋	北宋	1086	409
元祐通寶	北宋	北宋	1086	11
元祐通寶	北宋	北宋	1086	81
元祐通寶	北宋	北宋	1086	1
元祐通寶	北宋	北宋	1086	354

での貿易は、朝貢国が中国から貨幣を供給してもらうことに主眼があった。つまり、アジア全体の交易手段は銅であったのである。同時に、わが国でも中国銭を模してかなり大量の銭貨が鑄造されていた。これらの中世の銭貨が出土する例は全国各地にみられ、これまで発見された総数は三〇〇万枚を超えている。埋蔵量はその数倍になると考えられている。

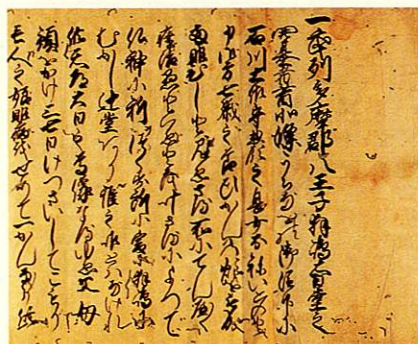
■いつ埋蔵されたか

福生市でみつかった大量の銭貨が埋蔵されたのは、出土した最新のものが世高通寶であるから、一六世紀後半と推定されるが、この時期は一五三七年（天文六）に北条氏が川越城を陥れ、武蔵国の支配権をほぼ握ったところである。しかし福生周辺は大石氏や三田氏などの勢力下であり、北条氏の支配はまだ及んでいなかった。

その後一五六一年（永禄四）、越後（新潟県）の上杉謙信が関東に侵入し、やがて撤退すると、上杉氏に加担した三田氏は北条氏に滅ぼされてしまった。このとき福生周辺は、三田氏の領域と北条氏の領域の接点にあり、軍事的緊張が高まっていた。北条氏の支配領域となったあとも、一五六九年（永禄十二）には甲斐の武田氏による滝山城攻撃、さらに一

不明	世高通寶	宣德通寶	朝鮮通寶	永樂通寶	洪武通寶	大中通寶	至大通寶	咸淳元寶	景定元寶	皇宋元寶	淳祐元寶	嘉熙通寶	端平元寶	紹定通寶	大宋元寶	嘉定通寶	嘉禋通寶	慶元通寶	紹熙元寶	大定通寶	淳熙元寶	正隆元寶	紹興通寶・折二	宣和通寶・折二	宣和通寶	政和通寶・折二	政和通寶	聖宋元寶	元符通寶	紹聖元寶
	琉球	明朝	明朝	明朝	明朝	元	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	南宋	北宋	北宋	北宋	北宋	北宋	北宋
	1461	1433	1423	1408	1368	1361	1310	1265	1260	1253	1241	1237	1234	1228	1225	1208	1205	1195	1190	1178	1174	1157	1131	1131	1119	1111	1107	1101	1098	1094
	14	33	20	68	248	2	2	10	6	2	7	3	2	6	3	1	1	7	9	7	3	19	1	4	19	59	5	8	66	63

福生市内出土銭貨一覧



野嶋兵庫(道誉禅定門 1615(元和元)10月28日没
あきる野市 大悲願寺所蔵) 野嶋兵庫の名は『過
去靈簿』に野嶋新三良の父として記載がみえる。

五九〇年(天正十八)の八王子城落城に至るまで、軍事的緊張がつづいた。大量の銭貨が埋蔵されたのは、このような戦国動乱の時代であった。

■**だれが埋蔵したのか**

この大量の銭貨を埋蔵したのは、どんな人物だったのだろうか。残されている記録にそれを解く鍵が隠されているかもしれない。

まず、福生村の成立について記された『神光仏言夢物語』によれば、清水但馬しみずたじまが福生村を、長田庄玄ながたしやげんが川崎村を、野嶋兵庫のじまひょうこが熊川村を開いたとされている。野嶋兵庫は礼拝大明神(現熊川神社)を創建したとも記されており、大量の銭貨が出土した場所が熊川神社に近いところから、熊川村草分けの一人であり武士の名をもったこの人物が埋蔵者である可能性もある。

また、熊川内出うづらでの真言宗真福寺を本拠に活躍していた半沢寛円坊は、本山派に属する修験者であった。半沢寛円坊は多西郡(七一頁参照)先達職の権益を一手に握っていたといわれ、銭貨が大量に出土した場所と真福寺との距離が近いことから、半沢寛円坊や寺院金融とのかかわりも注目されるところである。

さらに、熊川には長者伝承が残されており、長者堀の跡も確認されている。この長者屋敷(昭島市松原町)とよばれる場所からも五三枚の古銭が出土している。それらは開元通寶を最古銭とし、永楽通寶を最新銭としているが、この埋蔵銭貨と熊川出土の銭貨とのつながりは薄いとみら

北條氏直の家臣・石川土佐守が大日堂を建立し、その本尊の下に永楽銭1000貫を埋め、後世の修復に備えたという縁起を記したもの。

拜島村大日堂縁起(武蔵村山市 乙幡家所蔵)

れる。しかし、錢種の組成から見ると両者は比較的近い時期に埋蔵されたものであろう。

とところで、隣接する昭島市拜島の大日堂の縁起に、北条氏直の臣石川土佐守が大日堂を建立した際、後世の補修の費用とするため、地下に永楽通寶一千貫を埋蔵したと記したとされている。拜島村は熊川村の隣であり、埋蔵した錢種が永楽通寶という点でも、長者屋敷からの出土銭と同様注目される埋蔵錢伝承である。

■室町時代にはやる福神信仰

福神は福徳をもたらす神である。もともとは山の幸、海の幸をもたらす神として信仰されていた。しかし時代が下るにしたがって、欲望を満足させるための福神信仰の様相が濃くなり、室町時代には、七福神が確立した。七福神は、雑多な福徳の神を「七」の聖数にあてて組み合わせたものであるが、中世商人社会で福徳施与の神として流行的に信仰され、近世にも及んだ。七福神は、瑞祥の象徴として絵画や彫刻の好題材となり、またその影像を家に飾って拝礼し、あるいは七福神詣でや初夢の宝舟などの信仰習俗が広まった。福生郷の「福」、「生」という文字も、この時代の福神流行のなかで考えると、「ふっさ」に「福」と「生」という好字をあてたと思われる。したがって「福生」という文字を用いた地名ができたのは、一五、六世紀・室町時代のことではないかと考えられている。